

## 国際化推進委員会の取り組みと展望

大久保暢子<sup>1)</sup> 中島 薫<sup>2)</sup> 堀 成美<sup>3)</sup>  
 HUFFMAN, Jeffrey<sup>4)</sup> 五十嵐ゆかり<sup>5)</sup> 千吉良綾子<sup>6)</sup>

### The Activities and Vision of the International Affairs Committee

Nobuko OKUBO, RN, PHN, PhD<sup>1)</sup> Kaoru NAKAJIMA, BA<sup>2)</sup>  
 Narumi HORI, RN, MPH, MEd<sup>3)</sup> Jeffrey HUFFMAN, MEd<sup>4)</sup>  
 Yukari IGARASHI, RN, CNM, Ph. D.<sup>5)</sup> Ayako CHIGIRA, RN, MSN<sup>6)</sup>

#### [Abstract]

The International Affairs Committee of St. Luke's College of Nursing, originally established as the International Exchange Committee, changed its name in April 2012 to clarify the committee's enhanced aim of promoting globalization at the college and preparing our students and teachers to play active roles in the world.

During the 2012-13 academic year, the committee implemented various projects such as Global Health Seminars, short-term exchange programs with partner universities, collaborative activities with our student committee, a trial NCLEX preparation course to study nursing and health topics in English, providing information through Facebook and Twitter, and a series of discussions with faculty and administrative officials on the future direction of globalization efforts at St. Luke's. Future challenges for the committee are: to increase the number of partner universities through which we offer student exchange opportunities, to develop a common system with partner universities for evaluating student achievement during exchange programs, to enrich study abroad opportunities with before and after activities, to set up a credit recognition system for programs run by other institutions, to promote awareness of the importance of globalization among the faculty and administration, to plan international projects rooted in Christianity with other Anglican-affiliated universities, to cooperate with the WHO Collaborating Center for Nursing Development in Primary Health Care at St. Luke's College of Nursing, and to work towards implementing the institutional structure and gaining the financial support necessary to achieve further globalization at our college.

**[Key words]** global, international, globalization, short-term exchange program, global health seminar

#### [要 旨]

聖路加看護大学の委員会として国際化推進委員会がある。本委員会は、「本学の国際化を推進し、将来、国際社会で活躍する人材を育成すること」を目的とし、2012年度より国際交流委員会から改名した委員会である。

- 
- 1) 聖路加看護大学 基礎看護学准教授 国際化推進委員会委員長 St. Luke's College of Nursing, Fundamental Nursing, Associate Professor, Chair, International Affairs
  - 2) 聖路加看護大学 教務部教務課 国際化推進委員会委員 St. Luke's College of Nursing, Office of Academic Affairs, International Affairs Committee
  - 3) 聖路加看護大学 看護教育学助教 国際化推進委員会委員 St. Luke's College of Nursing, Assistant Professor of Nursing Education Science, International Affairs Committee
  - 4) 聖路加看護大学 教養英語科助教 国際化推進委員会委員 St. Luke's College of Nursing, Assistant Professor of English, International Affairs Committee
  - 5) 聖路加看護大学 母性看護・助産学助教 国際化推進委員会委員 St. Luke's College of Nursing, Maternal Infant Nursing & Midwifery, Assistant Professor, International Affairs Committee
  - 6) 聖路加看護大学 老年看護学助教 国際化推進委員会委員 St. Luke's College of Nursing, Assistant Professor of Gerontological Nursing, International Affairs Committee

本年度の活動としては、グローバルヘルスセミナーの開催、短期交換留学研修などの学術交流協定校との連携事業、学生委員会との協働、看護・医療英語を学ぶ講座の企画とトライアル、Facebook や Twitter などを利用した国際的情報の発信、本学が目指す国際性を考えるプロジェクト会議を行い、成果に繋がった。今後の課題は、①学部生が短期留学可能な学術交流協定校を増やすこと、②交換留学研修制度に対する協定校間での共通評価項目の作成と、研修事前事後プログラムの構築、③学生が主体的に海外研修した内容を単位認定できる制度を作ること、④教職員の国際性に対する意識を高める取り組みの充実、⑤聖公会の国内外大学と連携し、キリスト教精神に根付いた国際事業の考案、⑥WHO コラボレーションセンターとの連携、⑦国際化を推進できる組織作りと財政基盤の確保である。

〔キーワード〕 グローバル、国際化、人材育成、短期交換留学、グローバルヘルスセミナー

## I. はじめに

本学委員会の一つとして、国際化推進委員会がある。この委員会は、「本学の国際化を推進し、将来、国際社会で活躍する人材を育成すること」を目的とした委員会であり、2012年4月より、国際交流委員会から名前を変更して、新発足した委員会である。昨今、わが国の高等教育の方針は、豊かな語学力とコミュニケーション能力、異文化体験を身につけ、国際的に活躍できる人材の育成を積極的に掲げている<sup>1)</sup>。この流れも踏まえて、本委員会は、新発足以来、本学が国際化として推進すべき内容が何であるかを模索しながら、活動を行ってきた。

本報告は、1年間の委員会活動の内容を振り返り、次年度に繋げるための課題を提示するものである。

## II. 国際交流委員会から国際化推進委員会へ

学術協定校であるタイ・マヒドン大学、韓国・ヨンセイ大学との交換留学を行うに当たり、2005年に交換留学生世話人会を組織し、2006年4月には、国際交流委員会が発足した。委員会発足と同時に、国際交流担当の事務職ポストも設置され、本学国際交流事業の制度化が促進された。この本学の動きは、看護という共通語を通して、学生の国際的視野を広げるための機会を提供し、国際感覚を養うことを主眼としたものであった<sup>2)</sup>。2005年の世話人会以降、毎年、交換留学は実施され、現在も継続している。2010年には、交換留学生以外の学生にも国際的視野が持てる機会を提供できるよう学内で開催する「グローバルヘルスセミナー」を事業として追加した。このような動きの中、高等教育の流れは、諸外国より遅れをとる日本のグローバル化を懸念し、国家予算を増額してグローバル人材の育成と教育の推進を急務とするようになった<sup>3)</sup>。本学においても、国際感覚を養うだけではなく、国際的に活躍できる人材の育成を目指すこと、それには学生だけではなく、本学教職員も含めた本学全体の国際化を目指す必要があると考えられた。また、本学の

歴史を振り返ると、本来、外国人教師による英語での授業、国際的視野を根底とした看護教育が当たり前であり、自然と根付いていた<sup>4)-8)</sup>。しかし、昨今、その風潮は薄れつつある。本来の本学の風潮を取り戻すこと、つまり本学全体がグローバルであることが、現在の世の中の流れ、本学の良さを守り続ける一手段になると考えられた。2005年より、本学の学術交流事業を軌道にのせ、国際化の礎を築いて下さった前委員の皆様にご敬意を表し、それらの事業を尊重しながら、2012年4月より、本学全体の国際化を推進する委員会（国際化推進委員会）として名称を改め、新たに活動を行うこととなった。

## III. 2012年度の活動

### 1. 本委員会活動計画（表1）

委員会規程に基づき、本年度の委員会活動目標および活動計画を立て活動を行った。学生委員会とも活動目標および計画を共有し、共に事業を進めてきた。また学生委員会以外に、本年度発足した本学部活 St. Luke's Worldwide Health Action（旧国境なきルカ団 Global Health Action）についても、本委員会の主旨と目的が合致する場合は、イベント等で協働し、本学の国際化推進に能動的に取り組んだ。

### 2. グローバルヘルスセミナー（Global Health Seminar: GHS）

GHS は、本学学部生・院生の国際的なキャリア構築と、国際推進活動としての社会的貢献を目的としたセミナーである。2010年から始まり、外部者も参加可能である。表2の通り、様々な分野で国際的に活躍する方々を招き、60分程度の講演と30分程度の質疑応答を例年行っている。また2012年1月のセミナーでは、学生委員会と合同企画として、講師による講演後に、学生主催の談話会を開き、本学学生と他大学学生との交流を行った。この交流で、国際的視点を共通話題としたメールのやりとりが、本学と他大学の学生間で可能となった。

表1 2012年度 国際化推進委員会活動計画

目的	本委員会は、聖路加看護大学の国際化を推進し、国際社会で活躍する人材を育成することを目的とする。		
活動目標	a. 学術協定校との交換留学のシステムティックな運営を目指し、内容のプログラム化（事前事後の学習支援と評価の開発）を行う。 b. 医療用語の語学講座を企画し、次年度の本格的施行のためのトライアルを実施する。 c. 学術協定校を増やすために、諸外国の看護系大学との交渉を行う。 d. 国際化を推進する情報の積極的な発信を行う。		
月	教職員委員会活動	学生委員会とのミーティング	オブション活動
4	4月24日 第1回グローバルヘルスセミナー 定期委員会	顔合わせ会と委員会との目的、本年度活動の検討	グローバル人材育成事業申請書作成/ヨンセイ大学看護学部との面談
5	定期委員会 / ヨンセイ大学交換留学研修内容の検討	ヨンセイ大学交換留学学生に対する学生企画の検討	
6	6月28日～7月11日 ヨンセイ大学4名 交換留学研修 定期委員会	ヨンセイ大学交換留学学生への学生企画の実施	
7	定期委員会	ヨンセイ大学交換留学学生への学生企画の実施	本学将来構想委員会での提案
8	8月8日～21日 マヒドン大学へ本学学生4名 交換留学研修		
9	9月7日～20日 ヨンセイ大学へ本学学生4名 交換留学研修 9月16日～29日 マヒドン大学4名 交換留学研修	マヒドン大学交換留学学生への学生企画の実施 ヨンセイ大学に対する企画の振り返り	9/25 台湾高雄大学との面談
10	10月6日 第2回グローバルヘルスセミナー 定期委員会	マヒドン大学に対する企画の振り返り、白楊祭の準備	ポータルフォーリオ研修
11	11月1日 第3回グローバルヘルスセミナー 11月3、4日 白楊祭「聖路加の国際性を知ろう～学生委員会共同企画」の開催 11月8日～ 「医療英語を学ぼう！ NCLEX 講座」スタート 聖路加看護大学紀要への投稿（本委員会の本年度活動報告） 定期委員会（委員会予算と計画案の検討）	白楊祭での企画の振り返り	交換留学のプログラム化の検討
12	定期委員会	休会	
1	定期委員会/本年度の活動の評価と次年度に向けての計画案の作成		
2	次年度に向けての計画の検討		
3			

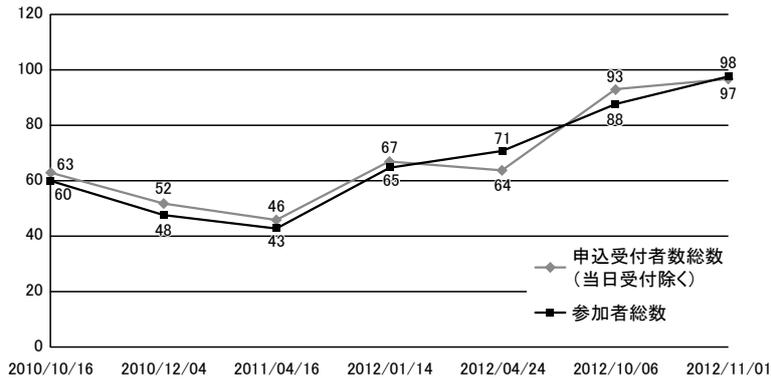


図1 グローバルヘルスセミナー申込受付者/参加者数の経時的変化

セミナー申込者及び参加者数は、年々増加傾向であり(図1)、本年度に至っては100名近くの参加者となっている。申込者及び参加者の内訳は表3の通りであるが、本学学部生・院生数以外に、他大学学生や看護専門学校の学生数、社会人数が年々増加している。

### 3. 学術交流協定校との連携事業

本学は、既に学術交流協定を11大学と結んでおり、特にマヒドン大学とは2005年度、ヨンセイ大学とは2006年度から交換留学研修制度が開始され、現在に至っている。2012年度は、6月にヨンセイ大学から4名の学生を迎え、2週間のプログラムを展開した。研修最終日

表2 グローバルヘルスセミナー開催の概要 (2010年～2012年11月現在まで)

開催日	講師名	講演内容
2010年10月16日(土)	齋藤 あや	カリフォルニア州看護免許取得と現地クリニックでの看護師としての臨床経験について
2010年10月16日(土)	梅田 麻希	ミャンマーにおけるAMDAの母子栄養保健活動について
2010年12月4日(土)	内山 文香	AMDAの保健関連事業運営を中心として
2010年12月4日(土)	小黒 道子	ミャンマーにおける母子保健関連のNGOプロジェクト活動について
2011年4月16日(土)	吉野 八重	国際協力分野での活動経験について、JICA母子保健プロジェクト(ブラジル)を中心として
2012年1月14日(土)	キタ 幸子	米国におけるBirthworker Doulaのケアと、米国助産師資格取得に向けた資格試験NCL EX準備について
2012年4月24日(火)	小山 幸子	第1部:看護師のキャリアとオーストラリア留学-私のライフプランニング 第2部:循環器看護の可能性-日豪の臨床経験から、その専門性と役割について
2012年10月6日(土)	徳間 美紀	助産師として参加したNGO国境なき医師団の海外派遣(スーダン、シエラレオネ、エチオピア、パキスタン)での活動について
2012年11月1日(木)	赤尾 和美	アンコール小児病院におけるHIV/訪問看護の専門家としての活動を中心として

表3 グローバルヘルスセミナーの申込者・参加者総数の打ち合わせと経時的変化

	2010/10/16	2010/12/4	2011/4/16	2012/1/14	2012/4/24	2012/10/6	2012/11/1
申込受付者数総数(当日受付除く)	63	52	46	67	64	93	97
本学学生	25	15	27	41	21	31	17
本学大学院生	5	2	4	3	2	10	5
他大学等学生(学部・大学院・看護学校)	22	21	13	21	16	34	57
高校生	7	8	2	2	0	3	4
社会人	4	6	0	0	25	15	14
参加者総数	60	48	43	65	71	88	98
本学学生					26	32	14
本学大学院生					2	8	5
他大学等学生(学部・大学院・看護学校)					15	31	60
高校生					0	2	4
社会人					28	15	14

表 4 2012 年度タイ・マヒドン大学交換研修プログラム

医学部看護学科ラマティボディ看護学校 2 名、看護学部（シリラート）2 名

Date	Time	Program	Location
9/16 (日)	6 : 20	成田到着 (TG640)	成田空港
9/17 (月)		学生企画 (大江戸博物館見学)	
9/18 (火)	10 : 45 - 11 : 45	プログラムオリエンテーション	604 演習室
	12 : 00 - 13 : 00	歓迎会	303 教室
9/19 (水)	11 : 10 - 11 : 30	学長・学部長あいさつ	
	11 : 30 - 13 : 00	学生企画 (そうめん、パフェ作り)	303 教室
	14 : 00 - 15 : 30	講義 I : 日本の看護 (大久保先生)	402 教室
9/20 (木)		聖路加国際病院実習 (5E, 5W, 7E, PCU)	聖路加国際病院
9/21 (金)	午前	臨地実習オリエンテーション見学	
	夕方	ホームステイ出発	
9/22 (土)		ホームステイ	
9/23 (日)		終日自由	
9/24 (月)	午前中	自由	
	12 : 30 - 16 : 00	13 : 00 - 16 : 00 クリニック実習	産科クリニック
	17 : 40 - 19 : 00	学生サークル交流活動① in English 1. 日本の医療の長所, 2. 医師, 看護師不足 3. 災害看護	302 教室
9/25 (火)	6 : 20 - 18 : 30	小鹿野町訪問 (地域看護)	
	18 : 45 - 20 : 15	学生サークル交流活動② in English 1. 高齢社会 2. 生活習慣病 3. 臓器移植	302 教室
9/26 (水)		終日自由	
9/27 (木)		講義 (田代先生)	
	17 : 30 - 19 : 00	学生企画 : 浴衣で花火を楽しむ	303 教室
9/28 (金)	11 : 50 - 12 : 30	修了式・送別会	505・506 研究室
	13 : 00 - 15 : 00	プログラムまとめ	
9/30 (土)	16 : 55	帰国 Departure	

表 5 Yonsei University Exchange Program; Itinerary for St. Luke's College of Nursing Students (2012)

Date	Time	Program
Sep 7 (Fri)	11 : 50 AM	Pick-up and check in to housing
	3 : 00 ~ 3 : 30 PM	Program Orientation
	3 : 30 ~ 4 : 00 PM	Tour of CON & Nursing History Museum
	4 : 00 ~ 4 : 50 PM	Simulation Center Tour
	5 : 30 ~ 6 : 30 PM	Student Activity : Welcome Party
Sep 8 (Sat)	AM, PM	Free Time (Tour)
Sep 9 (Sun)	AM, PM	Free Time (Tour)
Sep 10 (Mon)	AM	Free Time
	11 : 30 AM	Lunch with Dean, Associate Dean (Allen Hall)
	2 : 00 ~ 2 : 30 PM	Overview of Nursing Education Curriculum at Yonsei University
Sep 11 (Tue)	09 : 00 ~ 09 : 50 AM	Class : Introduction To Clinical Nursing Practice (Lecture)
	10 : 00 ~ 10 : 50 AM	Class : Introduction To Clinical Nursing Practice (Lab.)
	2 : 00 ~ 2 : 50 PM	Global Nursing : Family Planning and Maternal Child Health In Ethiopia
	3 : 30 ~ 4 : 30 PM	Severance Hospital Tour
	4 : 30 ~ 6 : 00 PM	Student Activity : Student Club Union
Sep 12 (Wed)	11 : 00 ~ 12 : 00	Site Visit : Naeil Women's Center -Chi Prenatal exercise class
	PM	Free Time
Sep 13 (Thu)	10 : 00 ~ 10 : 20 AM	Orientation for Clinical Practicum
	10 : 20 AM ~ 12 : 30	Severance Hospital Special Unit Tour (ICU, NICU, ER, Dialysis Unit)
	PM	Free Time
Sep 14 (Fri)	8 : 30 AM ~	Student Festival (Yonsei vs. Korea University Games)
Sep 15 (Sat)	AM, PM	Free Time
Sep 16 (Sun)	AM, PM	Free Time
Sep 17 (Mon)	11 : 00 AM ~ 12 : 00	Site Visit : Seodaemun-gu Public Health Center
	2 : 00 ~ 3 : 00 PM	Site Visit : East West Oriental Hospital
	4 : 30 ~ 5 : 30 PM	Yonsei Univ. Campus Tour (Digital Library, Museum)
Sep 18 (The)	08 : 30 AM ~ 12 : 00	Clinical practicum : W88, W47, W67, W131
	3 : 00 ~ 5 : 00 PM	Site Visit : Asiana Airline Medical Center
Sep 19 (Wed)	10 : 00 AM ~ 12 : 00	Site Visit : Kimpo Community Health Care Center
Sep 20 (Thu)	AM	Free Time
	11 : 00 AM ~ 12 : 30	Evaluation of Program & Lunch with Associate-Dean and students
	3:30 PM	Departure (Oz106)

の留学生からのフィードバックでは、日本の医療事情や看護の状況を講義や病院見学で学べたこと、本学学生との交流を多く持てたことを評価していた。またヨンセイ大学看護学部長、副学部長が4月末に本学を訪問し、本学学部長、英語科教員、国際推進化委員会委員長と意見交換を行った。その中で、交換留学研修の成果について両大学共通の評価項目を作成して評価していくことの出され、今後、メール交換しながら項目を作成していくこととなった。9月初旬にはマヒドン大学より交換留学生4名が来日し、表4の研修を行った。研修最終日の留学生とのフィードバックでは、特に産科クリニックの助産師活動や本学教員からの講義、学生との交流に対して良い評価を得た。8月初旬には本学学生がマヒドン大学に、9月初旬からはヨンセイ大学への派遣留学研修に2週間、各4名ずつ参加した(表5)。この4名の学生の選抜は、学内募集を行い、研修希望の理由、TOEIC/TOEFLスコアなどから決定する。本年度は、10名以上の応募者があり厳しい選抜となった。これらの留学研修については、研修後のレポート提出のみで、事前・事後学習は課しておらず、研修後の英語力、国際感覚の維持・成長に対する支援が薄い現状にある。今後は、事前事後プログラムも含めた留学研修プログラムの質の向上に取り組む必要がある。

さらに9月末には、学術協定校のひとつである台湾・高雄医科大学および附属病院、高雄市職員計15名が本

学を訪問した。本委員会委員長と高雄医科大学看護学部長、同大学看護学部と国際担当教員との話し合いの中で、学生交換について検討がなされ、高雄医科大学は2週間の留学研修の受け入れは可能であり、本学への交換留学生派遣希望も示された。本学では、宿泊施設がなくホテル宿泊になることから、受け入れには財政的課題がある旨を伝えた。最終的に高雄医科大学からの受入学生の宿泊について解決できれば研修制度は進められるとの見解を確認した。他にもイリノイ大学看護学部の教員との交換留学研修制度の検討を行ったが、交換留学の目的に対する双方の相違、受け入れ学生の宿泊の課題によって実現に至っていない。

#### 4. 白楊祭：聖路加の国際性を知ろう！（学生委員会との共同企画）

本年度から学生委員会との共同で、本学の国際推進の活動を紹介する企画を行った。

企画名は「聖路加の国際性を知ろう！」と称し、本学の広報を目的に大学生活におけるグローバル体験を披露する場を設けた。当日は、高校生とその保護者、地元の住民などが参加し、学生のプレゼンテーションを熱心に聴いていた。また国際推進活動のパネル展示の見学者も多く、担当者への質問も多数に上った。地元の女性・子供たち、難民支援に関連したブラジル、ミャンマー、クルドのアクセサリー販売も行い、多くの方に説明と販売



写真1 白楊祭企画・聖路加の国際性を知ろう！の風景

の機会があった(写真1)。本企画は、役割分担、時間配分などを含めた事前準備やスケジュール管理に課題を認めたが、来訪者からは、「聖路加の国際的な活動がよく理解できた、活発に国際的な学習がなされている大学と分かり興味を持った、学生の英語能力が素晴らしかった」などの好印象の意見をいただいた。

短期交換留学での本学学生の体験談や、自ら海外の医療施設に連絡し研修に挑んだ学生、また学生自ら途上国と連絡を取り、現地の人たちに健康教育を行った経験を英語で発表し、積極的・自律的に国際感覚を養っている学生の姿勢を多くの人々に知っていただくよい機会となった。

#### 5. 看護・医療英語を学ぼう！ NCLEX-RN トライアル勉強講座

2012年度計画の一つとして、看護・医療英語を学ぶための講座の開催があった。講座開催の目的は、本学部・院生を主とした将来の看護専門職者が国際的に活躍するための英語力の強化であり、聖路加国際病院の看護師も対象として参加者を募った。本講座は2012年11月8日の第1回目の開催を含め全9回の学習会を設定した。本講座の趣旨説明とNCLEX合格者による講演を行う第1回目への参加申込者数は80名で、初回の時点で66名が勉強会に参加した。

講座の企画は、委員会メンバーの英語科教員が中心となり、さらにNCLEX受験経験のある看護師を講座のサポート役として招き、開催した。計9回の講座であることから、本稿作成時点(2012年11月)では最終回まで継続的に受講する参加者数について未知数であるが、その点も含めたトライアルとして、次年度から本格的施行を検討していく予定である。

#### 6. 国際的な情報の発信戦略

本年度より、本学の広報目的も兼ねて国際化推進委員会作成のFacebook、Twitterを開始し、随時、イベントのお知らせ、国際的な学術交流の内容を掲載した。この2つの情報ツールは、主にグローバルヘルスセミナーでの集客に効果を発揮し、参加者アンケートにおいても「Facebookで1日目の企画が面白そうだったので、2日目に来た」「Twitterで話題になったので来た」等の声が寄せられたことから、情報の普及が早く、共通の興味を持つ人々を集約させる大きな力を持っていることがわかった。企業や放送局・雑誌関係の人々にもいち早く情報が伝わり、本学の国際推進活動のPRにも繋がった。

また本年度は、本学ホームページの英語版を本委員会が主体となってリニューアルを行った。加えて、本学学生だけではなく、教職員にも国際関係の活動、助成金、イベント等のお知らせを行っていただくため、大学のメール

アドレス「global.info@slcn.ac.jp」を取得し、随時、大学の国際化推進につながる情報発信を行った。

#### IV. 本学が目指す国際性を考えるプロジェクトおよびワーキンググループ会議

2011年度より、国際交流委員会が目指す活動、本学に必要な国際活動についての検討を委員メンバーとともに、しばしば国際看護学教員、英語科教員の意見も聞きながら、定期委員会以外に計8回ほどの話し合いを持った。そのプロセスの中で、委員会の目的や活動目標/活動計画の明確化、委員会名の改名の案が出され、2012年度の委員会改名と活動目標/計画に繋がった。また本年度は、文部科学省より、グローバル人材推進事業補助金公募がなされたことで、本学の国際推進事業に財政的・人的にも基盤を固めるために、補助金公募をチャンスと捉え、プロジェクトを結成し、本学が目指す国際性の内容、具体策を検討した。話し合いの中で、本学が目指す国際性とは、【多言語・多文化社会でPeople-Centered Care (PCC)の哲学を持って健康支援が出来る能力を持つこと、つまりPCCを基盤とした健康支援力、コミュニケーション力、主体的なキャリア構築力をもつ】ことであると共通認識をした。

#### V. 今後への課題

前述の通り、わが国の現在の教育方針にも助長されて、本学の国際化推進は追い風が増し、本委員会の活動も活発になった。本学2012年度重点活動計画に示されている「国際化事業の推進」は、本年度としては十分達成したと考えてよいだろう。

今後、本学でより「本学が目指す国際性」を強化していくには、①学部生が短期留学できる学術交流協定校を増やすこと、②交換留学研修制度に対する協定校間での共通評価項目の作成と、研修に対する事前事後プログラムの構築、③学生が主体的に海外研修した内容を単位認定できる制度を作り、学生の海外研修の成果を高め、素養としていけるようにしていくこと、④教職員の国際性に対する意識を高める取り組みを充実させること、⑤聖公会の国内外大学と連携をとり、キリスト教精神に根付いた国際事業を考案していくこと、⑥WHO コラボレーティングセンターとの連携を行うこと、⑦国際化を推進できる組織作りと財政的基盤を確保すること、が課題といえる。

#### 引用文献

- 1) 文部科学省. 1-3. 新たな時代を拓くグローバル人材育成のための大学改革の新展開(新規). 文部科学省

- 事業評価書(平成24年度新規・拡充事業等). [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/hyouka/kekka/1312117.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1312117.htm). [2012.11.05]
- 2) 園城寺康子, 片岡弥恵子, 奥裕美, 楠木洋子. (2006). 学術交流協定による2006年度海外研修生受け入れプログラムの報告. 聖路加看護大学紀要, 33, 39-47.
  - 3) 文部科学省. グローバル人材推進事業. グローバル人材育成推進事業の採択事業の決定について. [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1319596.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1319596.htm). [2012.11.05]
  - 4) 50年史編集委員会. (1970). 第1回生のころ. 聖路加看護大学50年史. 66-68. 聖路加看護大学.
  - 5) 聖路加看護大学. (1990). 教職員の動き. 聖路加看護大学の70年. 55-76. 聖路加看護大学.
  - 6) 日野原重明(1985). 開学満20周年記念特別寄稿 極東における看護教育(その1) Rockfeller Foundation Archive (1921-1930) からの翻訳 Nursing Education in the Far East. Translation of Rockfeller Foundation Archive (1921-1930). 聖路加看護大学紀要, 10, 1-10.
  - 7) 日野原重明. (1986). 開学満20周年記念特別寄稿 極東における看護教育(その2) Rockfeller Foundation Archives (1921-1941) からの翻訳 Nursing Education in the Far East Rockfeller Foundation Archives. 聖路加看護大学紀要, 11, 1-12.
  - 8) 聖路加看護大学大学史編纂・資料室委員会. (2010). 1 聖路加看護大学は開学からどのような教育理念のもとに, どのような看護職を育てようとしてきたのですか. 聖路加看護大学のあゆみ. 1-4. 聖路加看護大学.